

S Aさんへのインタビュー (no. 021)

■インタビュー：社会学科幹事4回生のS Aさん（女性）

1 普段の生活

テニスサークルに入っていて、アルバイトはアパレルの販売。飲み会やイベントの企画が好き。

2 内定先、現状

京都銀行、瀧大に内定をもらい、後者に決定したとのこと。

3 どこを受けたか？（ES、面接、その他）

ESは30社ほど出し、面接は20社ほど受けて、最終面接まで残れたのはIT系や繊維商社など4社だとか。

4 面接で何を聞かれるのか？

大学時代に頑張ったこと、自己PR、志望動機は鉄板で聞かれるらしく、その他はアルバイトについて、短所、ビジネス観、意欲、熱意など。1次面接では穴を探すような面接だったらしい。また、カラオケの18番や、自分を動物に例えると？や、35秒で～な人間と答えさせるようなものもあったらしい。

5 インターンシップには行ったか

行っていないが、3次選考に直結するようなインターンシップなどはおすすめとのこと。

6 どうしてこの就職先にしたのか

雰囲気や、やりたい仕事に近かったからということと、面接でありのままの自分が出せたから、とのこと。

7 就職活動で苦労したこと

交通費、体力、スケジュール管理、グループディスカッションなど。相手に熱意を伝えたり、先に決まっていって周りの人たちに流されそうになったり、志望動機を考えるのに苦戦したり、何より1番は論理的思考を用いて話すということだった。

8 就職活動で大切だと思うこと

論理的思考に基づいて自問自答して考えること。何を、誰に、どう言うのかなど、ターゲットを明確にしていくべきとのこと。

9 就職活動する前にやっておいた方がよかったと思うこと

TOIECなどの資格はあった方がいいが、なくても大丈夫。それよりも、面接できちんと伝えることのできる心のこもったネタ探しが大切。あとは就職活動の軸を聞かれるので、自己分析は大事とのこと。

10 何かアドバイスがあれば

面接は場慣れしていくので、12月ころから、早め早めに受けた方がよい。また、金融系は1度にたくさんの内定を出すので、必ず受けるべき。また、手を広げすぎると他社状況などを聞かれる際に矛盾が生じてしまうので、職種はある程度しぼった方がよい。自分をアピールする際には、～力があるというよりも、～を心がけていますといった方がよく、自分らしさを出せるとのこと。

11 就職活動のメリットとデメリット

メリットは、友達の大切さと、自分についてよく考えることができたこと。デメリットは、無駄な出費（交通費など）を惜しんでしまったので、惜しまない方がよいとのこと。

■ 私の感想

話を聞いていて大切だと感じたことは、論理的思考で物事を考え、自問自答し、それを相手に伝えることのできる能力が、面接では特に必要だと感じた。あとは、とにかく早めに行動するべきであるということ。やはり場慣れしていくであろうので、他の学生よりも早めに準備をし、早めに面接を受けるなどといったことは必要であると感じた。また、周りの人に流されずに、自分のペースを保ち、自分のやりたいことなどを模索していくことも重要だと思った。

S Bさんへのインタビュー (no. 022)

《インタビューについて》

- ・ 社会学科4回生 UゼミのSBさん (女性)
- ・ テニスサークルでウェディングのバイト・塾の講師のバイトをしていた。
- ・ 明るくてきれいな方。

《インタビュー内容》

1 内定先・現状を教えてください。

IT系企業、南都銀行から内定をもらい、後者に決定したそう。

2 どこを受けましたか？ (ES、面接、その他)

ESは25~30社ほど出し、面接は20くらいで、最終まで残ったのはIT、金融、その他4企業だそう。

3 面接ではどんなことを聞かれましたか？

金融はオーソドックスな感じだった。大正製薬では、面接の最後に面接官4人ほどの名前を聞かれたらしい。他は、生い立ちや、どんな子供だったか、中学時代については？ 学生と社会人の違いは？ 覚悟はできているのか？ といった質問も受けたそう。

4 インターンシップには参加しましたか？

していない。行くならOB訪問がおすすめとのこと。

5 どうしてこの就職先 (南都銀行) にしたのか？

金融系は、最初は興味がなかったが、世の中にお金はなくてはならないもので、金融系に行きたくなったからだそう。いわゆるメガバンクは圧迫面接で苦しいものがあったが、南都銀行の最終面接で、面接官や上司に褒められ、その場で内定をもらい、自分に期待してもらっていることがわかったので、決めたそう。

6 就職活動で苦労したことは？

交通費と体力。また、最初は緊張をしたという。

7 就職活動で大切だと思うことは？

自分から動き、妥協をしないこと。また、受ける企業の視野を狭くすると、受けた後にギャップを感じる人が多いので、視野を狭めないことも大切。また、金融系は大量採用なので、とりあえず受けたほうがよいとのこと。(1つでも内定があるといい意味で余裕ができるので)

8 就職活動する前にやっておけばよかったことは？

もっと先輩に話を聞いておけばよかった。また、自己分析はやはり大切で、イメージを掴んでおいたほうがよい。例えば、自分は何をしたときに喜びを感じるのか？喜怒哀楽のタイミングを知る、など。

9 何かアドバイスをお願いします

自分は割り切った就職活動ができ、それはよかったので、受け過ぎはよくない。とにかく面接ははやめに！！また、自分を飾りすぎないようにすべき。面接では自己紹介をするのではなく、自分は～を考えて～をしました、この会社では～を生かします、などの自己PRをするべき。また、グループ面接では大野さんはほとんど落ちなかったようなので、それを聞いてみると、「人の意見を聞きながらそれをまとめ、なおかつ自分の意見を言う」のが効果的だそうだ。

10 就職活動のメリット・デメリットを教えてください。

メリットは、就職活動を「やらなければならないこと」としてよい機会だったということと、友人の大切さに気付けたことだそうだ。

デメリットは、パソコンが混んでいる状態が多いので、注意すべき。また、地方の子は大変だということもおっしゃっていた。

《感想》

グループ面接でのアドバイスは、今後、役に立てたい。また、インタビューをしてよかったと思う点は、最終面接でその場で内定をもらえたケースの人にインタビューができたこと。この不況の中でも、必要とされうるような人は、必要とされるということが実感できた。実はこのSBさんは、前回のSAさんのインタビューの際に、好意で一緒に連れてきてもらった先輩で、突然のインタビューにも快く受けてくれた。そういった優しさも、企業は見抜いていたのだろうか??と思う所存である。

SCさんへのインタビュー (no. 023)

《インタビュー紹介》

・SCさん、商学部4回生・男性、Uゼミ（マクロ金融ゼミ）ゼミ幹事、野村証券に就職。

・先輩の紹介で知り合った人なので、初対面だったが、かなり詳しく書面で応えていただき、参考になると思ったので、ほぼノーカットで記載した（また時間のある時にみなさん読んでみて下さい）。

・面接などには落ちたことがないらしく、リクルーター面接というもので内定を勝ち取ったタイプ。

《インタビュー内容》

1. プロフィールや現状を教えてください。（①普段の活動②内定状況③現状④ESについて⑤面接状況など。）

①普段の活動

例えば学生団体に所属している（有名な学生団体 AIESEC など）学生や所属人数が多いサークル、（企業側に）有名なゼミに所属している学生のように、特に大それた事をしているタイプの人間ではなく、ごくどこにでもいる一学生です。但し、どこにも所属している訳ではないですが、学内学外問わず顔が広い事は確かです。

私自身について記述します（2回生～3回生の4月頃まで）。

2回生の春（4月）から、日経新聞の朝刊を駅で自費購入（¥140）して読むようにしました。理由として、朝の通学時間は約2時間と長かった為、有意義に使おうと考え日経新聞を読むという行為に辿りつきました（日経新聞の記事を7～9割読むには約2時間掛かる）。背景として、漠然とした“金融”や“経済”に対する興味を持っていたからだと思います。

春・秋の授業登録で、2回生にも関わらず今出川の金融の授業を登録しました（京田辺の学生の雰囲気が好きではなく、また経営や簿記の授業ばかりで興味が湧かなかった為、知らない世界＝金融を覗いてみようと思った為）。その金融の授業で出逢った教授が今ゼミお世話になっている、U教授です。U教授の授業は難しい一方で、私にとっては大変楽しいもの（ちなみに・・・私は大の勉強嫌いです）でした。そこで、3回生になれば（商学部のゼミ登録は3回生）必ずU教授の元でゼミ登録すると決めました。

夏～秋・冬にかけて、毎朝の日経新聞の記事（読み始めた頃は、新聞に書いてある事が困難過ぎて、且つ自分の知識不足で全く面白みを感じていませんでした。）の知識と

共に授業の“金融”がリンクし始めた。“机上の勉強＝金融の授業”が“実体経済＝日経新聞”を説明していて、初めて日経記事や金融についての面白みを感じ始めた頃です。

丁度この頃から、所謂“年金問題”が世間を騒がせ始め、自分の年金について考えを巡らせるようになった。そして、これに関連して9月頃からFP（ファイナンシャル・プランナー）の資格取得に向けてダブルスクールを開始。（金融にも関連していて勉強嫌いでも頑張って学べました。）翌年1月に3級を取得、2月に提案書（詳細に記述すると、AFPに登録する為に作成するもの）5月にAFP（2級）取得。金融の世界へまっしぐら。

3回生の4月19日に初めて外資系金融機関の就活セミナー（京大生用の質問会）に飛び入り参加。当初は外資系金融機関を目指していた為（外資は年内に内定が出ると友人（4回生の高校の頃の高級生→私は浪人生なので）に聞く）、夏のインターンに参加する事がかなりの近道であると知る。つまり、セミナー（質問会という名の選考）に参加する事で社員からのチェック（出来る学生はマークされる・・・名前や顔を覚えられる）→セミナーに何度も参加→インターンシップの試験を受ける→インターン参加→内定という流れを狙っていた。後に方向転換。

②内定状況

本当の内々定（内定は内定式後から・・・事実上は内定なのですが、現段階では内々定者扱い＝労使関係は発生しておらず）は、野村證券の1社のみです。

最終面接のみ（事実上の握手のみ）は三菱UFJ証券 投資銀行本部 と みずほ証券 IB部 でした。形上で言えば3社から内々定を頂いたと解釈しても問題はありません。

③現状

現状は、海外旅行に行く為にアルバイトに勤しむ毎日です。

内定者懇親会があったり、自分なりに現社員に会社での働き方を伺ったりしています。

学内では、ゼミ活動（卒論や3回生へのアドバイス）が忙しいです。

年内には、簿記取得とTOEIC高得点を目指しています。

④ESについて

恐らく13～16社くらいだと思います。20社は出していません。

・野村證券・三菱UFJ証券 投資銀行部 ・みずほ証券 IB部 ・大和証券SMB C・大和証券・日興コーディアル証券・岡三証券・三菱UFJ信託・三井不動産・三菱地所・住友不動産販売・岩井証券・新光証券・三井住友銀行・東京三菱UFJ銀行

⑤面接について

通常の面接（大手企業は4月1日から始まる正規の面接）は落ちたことがないです。

正規の面接を受けた企業は、岩井証券（3次面接で辞退）、住友不動産販売（3次で辞退）、日本興亜損害保険（3次で辞退）。辞退理由としては、これらの企業に興味が無かったから。3次は大よそ人事部長か役員面接。興味がないのに面接して頂くのは失礼だと感じた為に辞退。

私は基本的にリクルーター面談（カフェやホテルラウンジでコーヒー飲んだり、企業に呼ばれて個別で面談＝実質の面接）で採用されました。リクルーター（敢えて細かく記述はしませんが、強いて言えば裏道採用ルートが存在する企業もあるという事です。金融機関はこの手が多いです。他業種にも数社あります。）私は最大で7社のリクルーターが付いていました。つまり、この7社は私は他の就活生よりもアドバンテージもデイスアドバンテージ（面談で良い印象を与えられなければ）もあると言う事です。幸いにも私は自らお断りを入れる方が多かったです。

2. 企業選択について、その背景や理由、着眼点、軸などを教えてください。

企業選択の背景は、上記に記述済み（金融にしか興味がなかった）。

その中で投資銀行や証券会社はデカイ仕事（規模や社会的インパクト）が出来る魅力。

自分勝負が出来る魅力（甘えが許されないノルマ主義で正当に360度評価が下される厳しい環境）。

軸は、自分でもイマイチ分かりません。軸という言葉はしっくりこなかっただけかも知れませんが……。敢えて言うならば、軸（と呼ばれるもの）はあまり無いほうが良いと個人的には思います。軸（と呼ばれるもの）があると、選択肢が（自然に且つ意識的に）狭められる為。基本的には、変化するものです。今現在（7月）に考えたものは12月には変化しているだろうし、来年4月にはもっと変化していると思います。

逆に、軸（と呼ばれるもの）があると、企業や業界とベストマッチした時にはかなりのプラスの威力を発揮すると思います。一方で、その逆も然り。

3. 内定した企業の中から選んだということでしたが、どうして野村証券にしたのですか？

一言で言えば、リクルーター（野村証券ではキャリアサポーターという）の方に人間的に惚れたから。他の企業（特に私は投資銀行業務に憧れていたもので、三菱UFJ証券投資銀行本部やみずほ証券IB部に行く方が自分の望むフィールドである事は確かでした）のリクルーターとは圧倒的に差があり、野村証券の社員と最も合わせて頂き（セミナーとリクルーター面談を含め約25名の社員）自分が合うと感じた為。

4. 自分の就職活動で、他人とは違ってよかったと思うことは何ですか？

大きく分けて6点あります。

1点目が、日経新聞や本（主にビジネス書）を読む習慣をつけた事。

学生と社会人は立場が全く違います。学生の知識や考えの甘さを痛烈に感じます。そのような中で、学生と企業側（面接官）が歩みよる“面接”という場において、企業側は学生の“頑張ってきた事”や“自己PR”を聞いて、学生の側に“話題を合わせて”“話題の共通項”を作ってくれます。一般的には、この形です。しかし、私はプラスアルファとして、日経新聞の知識（大手企業や金融業界では読んでいる社員が多い）やビジネス書の知識（話題書）を自分で持つ努力をしました。これにより、企業側（面接官側）に“話題を合わせて”“共通項を作る”努力を試みていました。これにより、多くの学生を面接している企業側へ“印象付ける”事が出来たと思います。実際多くの学生はやっていませんから。

2点目は、同回生よりもいち早く就活を本格的にした為（色んな企業に内定している4回生と多く知り合っておく相談する、髪を黒くする、短くする、スーツを買うなど）

私は浪人生だったので、当時の4回生に高校の同級生がいてその友人の友人（～企業の内定者）を紹介してもらって生の話をいち早くから聞いていました。これで、同時にその内定者と繋がるプラス更に紹介してもらっていました。就活にコタエはないので、出来るだけ多くの就活経験者の話を聞く事が大切だと強く感じました。

周りの3回生が茶髪で遊んでいる時期に、髪を黒く短くする事に抵抗を覚える人にはオススメできませんが・・・いち早く意識の切り替えをするには手っ取り早かったです（茶髪のまま当時の4回生に就活の話聞くのも失礼だと思っていたので。真剣に話を聞くには真剣な姿をみせるべき。これは就活をすれば分かると思います。）。

3点目は、自分が進むべき業種・業界の決定が早かった事。

上記記述通り。

早く見つけるに越したことはないと思いますが、自分の幅を狭める事はしないで欲しいです。現3回生は今から就活を行うので、可能性はかなり広いです。特に、仕事や業種に対して何も本当に知らないまま『向いている』『向いていない』で独りよがり判断してしまうのは非常に勿体無いです。そもそも仕事をした事もないのに、そのような判断は下せないはずだからです。

4点目は、複数社のリクルーターについて頂いた事。

これも上記記述通り。

同業他者、同業界で1社リクルーターの接触があるとこれを逃がさずに他社でエサとして利用できます。

5点目は、自分のキャラクター（性格・・・良く云われる自己分析）を認識していた事。

出来るだけ早い内に、自分自身がなぜ、いまの自分の考え方（思考プロセス）になったのかを自分なりに思い返す。これが企業選びに関連する為。自分一人で思い返すよりも、気の許せるヒトと話をする事で様々な気づきを得られます。

最後は、年配の方（社員、4回生）と話をする態度、言葉遣いに慣れていた事。

学生と社会人は全く違います。言葉遣い、知識、経験・・・圧倒的に学生は劣ります。謙虚に、そして上手く懐に飛び込めるように心がけると良いと思います。一長一短にマスター出来る事ではありません。普段から言葉遣いなどは気を付けなければ、思わず学生言葉が出てしまいます。多くの社会人は言葉遣いや態度がなっていない学生には冷たいです。

5. 就職活動の感想を教えてください。

一言で云えば、楽しかったです。

自分が思うように進められ、就職氷河期と言われていたので内心不安も大きくありましたが、それ以上に楽しく様々な社会人に会えて、就活生に出逢えて本当に楽しかったです。

6. 今からやっておいた方がいいこと、就職活動のコツや注意点など、アドバイスできるものがあれば教えてください。

個人的には、就活という枠組みは大嫌いです。

『戦略』があれば、案外スナリ決まります。

コツはありません。今までの生き方や考え方が大きく反映されます。

適当だった人間が急にシッカリする訳はありません。

話を見聞きする際には、相手の目をシッカリ見る、時間を守る、期日を守る、メールは必ず返信する、挨拶は必ずする、謙虚さを忘れない、マナーを守る・・・ごく当たり前の事を当たり前になっていませんか？

精神的に参る時期も来ます。

その時に支えてくれそうなパートナー（彼氏、彼女、親友、親、兄弟、先輩 etc...）がいそうですか？就活は孤独でもあり、ヒトと絆を感じられる時期でもあります。

面接は最終的に孤独です。自分を強く持つには、ヒトの支えも必要です。

就活をしていくと様々な出会いがあります。1つ1つを大切にしてください。

物事を論理立てて（ロジカルに）発言、考える癖を付ける事をオススメします。

私が就活で最も大変だったのは、自分の思いを他者に伝える時に、『明確に、簡略に、具体的に→抽象的に、抽象的に→具体的に』を意識する事でした。自分が想像している以上に、他者には伝わっていません。それを解消するには、ロジカルに考え、発言する事です。

要は、why?と Because の繰り返しです。理由を考えた際には、時に、後付けに感じるかも知れません。しかし、それで良いのだと私は思います。物事のアクションを起こす際に、理由を考えているよりも、感情部分（非ロジカル＝パッション）で動いているからです。人間である以上は当たり前です。それを、就活の期間に改めて理由付ける、これも『戦略』の1つです。

長くなりましたが、私10卒生の時期よりも厳しいと予測されている11年卒生の就職戦線ですが、“社会人人生の初め指針”となります。後悔しないように、“自分が”納得いく就職活動に期待しています。ただ、これで人生が決まる訳では決してありません。あくまで、“指針”が決まるだけです。

社会人生活は、学生生活の倍以上あります。特に男性は・・・。
学生生活が楽しくて社会人生活がイヤだと言うのは分からなくもない考え方ですが、学生は、『お金を払って授業を受ける』側です。社会人は『仕事をする事でお金を貰う』側です。本当に大きく異なります。後者は圧倒的に責任が重いです。仕事の労働対価を頂く訳ですから。自分の生きている時間を仕事とするのだから、労働対価を貰うのは当然だと言う考えもありますが、大きく小さく規模に関係なく、社会人になり『仕事』をするという行為は、社会の役に立っている事になります。『働く』とは、元来『傍』を『楽にする』という意味らしいです。用は、共に働く同僚、そしてそのサービスなどを利用する消費者の為になる事をしているという事です。

『働く意味』に悩む事もあるでしょうが、現段階で“自分なりの1つのコタエ”を見つける事も就職活動だと、私は個人的に思います。

就活をするにあたりオススメの本を明記して締めたいと思います。

- ・『生き方』 稲盛和夫 サンマーク出版
- ・『何のために働くのか』 北尾吉孝 致知出版社
- ・『若者はなぜ会社選びに失敗するのか』 渡正裕 東洋経済
- ・『外資系トップの仕事力』 ISSコンサルティング ダイアモンド社
- ・『就活の法則』 波頭亮 講談社

- ・『就活のバカヤロー』 石渡嶺司 大沢仁 光文社新書
- ・『「知の衰退」からいかに脱出するか?』 大前研一 光文社

《感想》

サークルの先輩に、自分が知っている友人の中で、1番就職活動を成功させた友人であるというSCさんを紹介してもらい、インタビューすることができ、よかった。印象的だったのは、就職活動は楽しめ、と言っておられたこと。インターンシップに行くのも、就職活動を行うのも、全て人と人との出会いであり、そういった出会いを楽しみ、友人を作り、自分の視野や価値観を広げることが大切、と言っておられたこと。確かに、今回調査実習のこのインタビュー作業がなければ、このSCさんとも出会っていなかったわけで、SCさんの人生観や価値観には出会っていなかった。そういう点で、就職活動を「人生の1つの大きな人と人との出会い」と捉えることによって、少しは気が楽になりそうだ。

ほとんどノーカットで記載したのでかなり長くなってしまいすみませんが、少しでもみなさんの参考になれば嬉しいです。

SDさんへのインタビュー (no. 024)

《インタビューについて》

- ・ 同志社大学商学部4回生のSDさん（サークルの先輩）、女性
- ・ 普段の活動：アルバイト（派遣の営業）、SIVIO（ボランティアサークル）、趣味は会話
- ・ 資格：なし
- ・ インターンシップ参加度：6社ほど（ベネッセの3日間のもの、富士通の5日間のものなど）
- ・ 就職活動開始時期：3回生の7月頃から
- ・ エントリーシート：40社、面接：12社、業種：人材、メーカー、製薬会社など
- ・ 内定先：DENSO、ベネッセコーポレーション。DENSOを選択

《インタビュー内容》

1. どのように企業選びをしましたか。

早い段階から、就職活動を意識し、幅広く業種を見て、自分に合った企業を選んだ。

2. なぜ上のような企業選びをしましたか。

内定先としては、自動車部品メーカーDENSOとベネッセで迷ったが、世界に影響があり、女性が1割しかいないけれどもDENSOを選択。理由は、自分をきちんと見てくれるような面接だったこと、そして内定後も連絡をくれて相談に乗ってくれたこと、人がよかったことなどが挙げられる。ベネッセはインターンシップに行って自分が思っていた仕事とは違い、能力主義で、女性は編集作業を行い、営業は男性しかできないことがわかり、DENSOに決めた。

3. 人とは違って、ここを工夫した！ということを教えてください。

- ・ 説明会において、聞いた情報をメモするのではなく、自分の感想をメモしたこと。
- ・ 印象づける内容を話すこと。例えば実際には、イチローの名言を利用したり。
- ・ エントリーシートは、1枚1枚、コピペなどはせずそれぞれ違うことを書くこと。
- ・ OB・OG訪問を20人ほど行ったこと。
- ・ 影響されることが嫌いで、いわゆるシュウカツ本は一切読まず、自分流で望んだこと。

4. 感想を教えてください。

楽しかった！

というのも、面接は70回ほどこなしたけれども、会話が大好きで、明日が面接と思うと、楽しみでわくわくした。出会いや視野が広がったことがよかった。

5. アドバイスをお願いします。

- ・ 早い時期、特に7月頃から動くべき。人よりも早い段階から取りかかったので、自信を持ってできたし、言いたいことも言えて、面接官を説得できた。
- ・ 自分は自分、他人は他人と思って、流されないこと。
- ・ 嘘はつかないこと。
- ・ 面接が終わったら、ノートを作ったりして、復習をすること。
- ・ 熱意をアピールするために、面接前に企業研究をしっかりとすること。
- ・ 時間を有効活用すべき。今日できることは今日中に。
- ・ 面接では、印象づけることに徹底するべき。
- ・ 企業の未来を自分の目で判断することが大切。

《私の感想》

この先輩は、面接はバンダイ以外は落ちなかったそうで、1番は人と会話をするのが大好きなこと、そして何より緊張しなかったとおっしゃっていた。私が思うに就職活動を成功(ここでの成功とは、自分の希望する人生を歩める選択ができたことと考える)させることができた人の中でも、かなり模範な方だと思う。実際に、インタビューをして話していても、たくさんのお話を話してくれたし、そしてわかりやすく、楽しそうで、何より印象的だった。きっと面接官も、私が感じたものと同じようなことを感じたのだろうなと感じた。

この先輩が就職活動に成功した理由を自分なりに考えると、まず、自分の人生、そしてこれから先の生き方、全てにおいて、いい意味で貪欲なこと。就職活動を人より早く始めることも、社員を訪問する人数の多さも、面接の復習ノートを作っていたことも、全て、その貪欲さ、自分のキャリアデザインに対する意識の高さに帰結するのではないだろうか。だからこそ、自分は自分、と他人に流されず、自信を持って、就職活動に望めたのだろうと思う。

この先輩の話聞いて、自分も就職活動に対してポジティブな気持ちになることができたので、私も自分ときちっと向き合って頑張りたい次第である。

ちなみに、リクルートエージェントの11月にある模擬面接はおすすめらしい。

SEさんへのインタビュー (no. 025)

《インタビューについて》

- ・ 同志社大学経済学部4回生のSEさん、女性
- ・ 普段の活動：サークル、アルバイト、ボランティア、ゼミ幹事
- ・ 資格：教員免許（高校公民）、自動車免許
- ・ インターンシップ参加度：京都銀行の長期間のインターンに参加
- ・ 就職活動開始時期：3回生の5月から、本格的には10月から
- ・ エントリーシート：30～40社、面接：30社、業種：金融、旅行、メーカーなど
- ・ 内定先：任天堂、池田銀行、京都銀行、JTB、キーエンス（S職）、三井住友海上（一般）、東京海上（エリア総合）の中から任天堂を選択

《インタビュー内容》

1. どのように企業選びをしましたか。

金融、旅行、メーカーやエンターテインメント、同志社事務所、人材系などを受けた。教育などは業界として厳しいので受けていない。ちなみに、大和証券、三井住友銀行はリクルーターがついていたが、総合職で全国転勤があるため断った。

2. なぜ上のような企業選びをしましたか。

自宅から通えて、土日が休みで、女性が多く（制度が整っている）、人の役に立つという条件で絞った。また、任天堂に決めた理由は、もともと第一志望だったことと、上の条件と、事業内容が面白そうで、おだやかな社風というのに惹かれたから。

3. 人とは違って、ここを工夫した！ということを教えて下さい。

スーツは伊勢丹でよいものを買ったこと。身なりや化粧は自分流で行ったこと。ちなみに、毎回、最終面接はスカートでいったそう。

4. 感想を教えてください。

自分が行きたい企業の下から（第5希望、第4希望というふうに）受かっていったため、よかった。だから、任天堂に受かったときは本当にうれしかった。

5. アドバイスをお願いします。

- ・面接でうそは言わないこと。
- ・余裕を持ってエントリーシートを出すこと。
- ・遊びながら、就職活動をする事。
- ・長期間のインターンシップに行くほうがよい。
- ・よく寝ること。
- ・素を出せるような面接をすること。(理由は、情報量が多かったから。いきたい企業のOB・OG訪問はしっかり)
- ・学内のセミナーにはできるだけ参加をすること。(外のものだと時間・交通費がかかるので学内のセミナーを有効に使ったほうがよい。)
- ・京都銀行の学内セミナーには必ず行くこと。(そうでないとESに通らない)
- ・スーツはいいものを！！(スーツがよれよれだと、いかにもできなさそうに見えるため)

《私の感想》

今、乗りに乗っている(?)任天堂に受かったということで、知り合いの先輩にこの中川さんを紹介してもらい、インタビューをお願いした。感想としては、第一印象はおだやかな方だが、話を聞いていると、自分の中で譲れないものは譲れない信念がある方なんだなあという印象を受けた。この不況の中でかなりの内定をいただいている先輩でもあったので、何かコツを聞き出そうとしたが、スーツはいいものを！ということを押していらっしゃった。おそらく、普段の生活から、就職活動における常識なるものが備わっていた方であると思った。あとは、かなり早い段階から就職活動に取り掛かっていたこと、そして自己分析をしっかりしていらっしゃったことが、第一志望に内定という結果を生み出したのだと思う。

S Fさんへのインタビュー (no. 026)

《インタビューについて》

- ・ 同志社大学経済学部4回生のS Fさん（先輩の友人）、女性
- ・ 普段の活動：アルバイト（塾の講師）、地元での吹奏楽、資格の勉強
- ・ 資格：簿記2級、AFP
- ・ インターンシップ参加度：なし
- ・ 就職活動開始時期：7～8月ころ
- ・ エントリーシート：30～40社、面接：10社ほど、業種：いろいろ
- ・ 内定先：パナソニック（経理）

《インタビュー内容》

1. どのように企業選びをしましたか。

夢が描けそうな企業選びをした。よく、人事の人を見て、人で企業を選んだということを知ることが、人事の人の人柄がいいのは当たり前だし（だから人事であるのであって）、配属される部署によって人がいい・悪いは変わってくるので、人では企業を選ばなかった。

2. なぜ上のような企業選びをしましたか。

未来・将来があって、わくわくできるような企業を選び、就職活動をした。もともとは商社を希望していたが、落ちてしまって、そのどん底からパナソニックに内定。内定の理由は、自分の夢と、パナソニックが求めているものが、マッチしたからだと思う。パナソニックはほかの経理とは違って、経営の管理ができるところに惹かれた。

3. 人とは違って、ここを工夫した！ということを教えてください。

特に工夫したことはなく、素の自分で就職活動を行った。

4. 感想を教えてください。

4月の末に就職活動を終えたが、やりきった。満足のできる結果となった。

5. アドバイスをお願いします。

後悔しないように、勉強、企業研究など、とことんやるのが大切。OB・OG訪問は20人くらいしたし、それくらいやるべき。また、一番大切なのは、自分がやりたいこ

とを探し、内定だけをとってくるような就職活動をしないこと。

《私の感想》

この方は、パナソニックに内定したということで、先輩に紹介してもらい、お話を伺った。言葉数はさほど多い方ではなかったが、熱意が伝わってきた。お話を伺って思ったことは、本当にやりたいことと、企業が求めていることがマッチすれば、内定という形に結びつくのだなと感じた。この先輩は、自分のやりたいことが明確であったんだなと感じたし、一般的にいう内定をとってくるような就職活動はしてはいけない、ということをおっしゃっていたことがとても印象的だった。私も、自分が本当にやりたいこと・将来どういうふうになりたいかを明確にしてから、その中で企業を選ぶようにしたいと思った。

SGさんへのインタビュー (no. 027)

《インタビューについて》

- ・ 同志社大学経済学部4回生のSGさん（サークルの先輩）、男性
- ・ 普段の活動：サークルの企画、アルバイト（家庭教師、居酒屋）
- ・ 資格：自動車免許
- ・ インターンシップ参加度：三井物産の1日のものに参加
- ・ 就職活動開始時期：6月後半ごろから
- ・ エントリーシート：20社、面接：20社、業種：広告、商社（繊維、総合）
- ・ 内定先：セプティニー・ホールディングス（インターネット広告）、コンテンツ（空間プロデュース）、豊島（繊維商社）の中からセプティニー・ホールディングスを選択

《インタビュー内容》

1. どのように企業選びをしましたか。

自分が興味のある仕事をしていること、派手な仕事であること、給料がよいこと、多くの人の支えになっていること、人の心を動かすという点で企業選びをした。

2. なぜ上のような企業選びをしましたか。

活動に惹かれたし、サークルの企画の仕事が楽しかったためそれとマッチしたし、影で支える仕事が好きであるし、何気ない日常の中に眠っている、わくわくするような仕事をしたかったから。

3. 人とは違って、ここを工夫した！ということを教えてください。

- ・ 第1印象をよいものにするために、自分なりに工夫したこと。
- ・ 面接で、きちんと伝わるよう、話し方を工夫した。具体的には、自分の人間性がわかるように、話に一貫性を持たせた。また、話は、短く、端的になるように心がけた。
- ・ OB・OG訪問は8人くらい行った。

4. 感想を教えてください。

就職活動は、楽しんだもの勝ち！！

5. アドバイスをお願いします。

自分は自分、他人は他人と、自信を持つことが大切。また、自分で考えて、自己分析をするほうがよい。だから、本などは一切使わなかった。また、うそは、1を100にするうそはいいが、基本的にはつかないこと。そして1番大切なのは、自己分析をしっかりとすること。

《私の感想》

このSGさんは、サークルでは縁の下の力持ちという方で、話を聞いて、まさにそういう仕事を選ばれたんだなと思った。また、早い段階から就職活動を始めていらっやって、しっかり就職活動もなさっていたんだなという印象も受けた。また、就職活動で大切なことである、自信も、きちんと持って行うことが大切であるということも、お話を聞いて再確認できた。聞いていると、就職活動を楽しんだということが伝わってきたので、自分もそういうふう楽しんで、就職活動を行いたい。

SHさんへのインタビュー (no. 028)

《インタビューについて》

- ・同志社大学経済学部4回生のSHさん（サークルの先輩）、女性
- ・普段の活動：販売のアルバイト、サークル、資格（公認会計士）の勉強
- ・資格：英検2級、TOIEC、公認会計士に向けて勉強中
- ・インターンシップ参加度：三菱東京UFJ銀行の1日インターンシップに参加
- ・就職活動開始時期：3回生の10月
- ・エントリーシート：12社、面接：12社、業種：商社、銀行など
- ・内定先：シティバンク（外資企業）。今はこの企業を蹴って、公認会計士に向けて勉強中

《インタビュー内容》

1. どのように企業選びをしましたか。

人と社会を支えている仕事で、海外進出のある企業で、社会の最先端にいる変化する業種であることなどという点で選んだ。

2. なぜ上のような企業選びをしましたか。

自分はいつも人の支えになっていたし、資格をとっていたということ、そして変化する業種を選んだのは、違った環境を自分自身が楽しめたことなどがあげられる。

3. 人とは違って、ここを工夫した！ということを教えてください。

- ・テスト（たとえば商社のテストなど）は、5～6人で一斉に解くこと。
- ・面接の練習を友人同士でしたこと。
- ・OB・OG訪問を25人ほど行ったこと。これは面接時の話のネタになったという。
- ・会社の説明会では、自分の感想をメモしたこと。
- ・ESが一本の自分の軸となるようにすること。
- ・本は読まずに自分流で行ったこと。
- ・昔の自分や性格について、友人にきいたり、そして親に聞いたこと。
- ・面接は、元気に明るく！というのを心がけたこと。

4. 感想を教えてください。

つらかったこともあったが、楽しかった。また、自身としても、成長することができ、

よい機会だった。

5. アドバイスをお願いします。

3に同上。

《私の感想》

サークルの先輩であるSHさんは、商社を希望していたが、テスト（数学？）で落とされてしまったそう。その話を聞いて、商社の難しさを知った。また、シティバンクに内定しながらも、やりたい仕事ではなかったそうで、それを蹴って、資格取得（アメリカの会計士になりたいとのこと）に向けて勉強するというその心意気は、すごいと思った。ぜひ、がんばってほしいと思った。

話を聞いて、私自身、銀行などにあまり興味はなかったが、人と社会を支えている仕事ということを知って、少し興味を持った。先輩にもたくさん頼ったそうで、私も、そこは真似ようと思った次第である。

S I さんへのインタビュー (no. 029)

《インタビューについて》

- ・ 同志社大学経済学部4回生のS I さん (サークルの先輩)、男性
- ・ 普段の活動：SIVIO (ボランティアサークルの長)、出版本の営業、京都賞など
- ・ 資格：英検準1級
- ・ インターンシップ参加度：なし
- ・ 就職活動開始時期：3回生の10月
- ・ エントリーシート：25社ほど、面接：25社ほど、業種：広告、マスコミ、金融、コンサルティング、商社、メーカー、人材など
- ・ 内定先：アビーム・コンサルティング、キーエンス、楽天、リクルートの中からアビーム・コンサルティングを選択

《インタビュー内容》

1. どのように企業選びをしましたか。

海外で仕事ができること、裁量権が大きいこと、企業の人をみてよかったこと、人に影響を与えるという点で選んだ。

2. なぜ上のような企業選びをしましたか。

アビーム・コンサルティングにしたのは、20代から海外出張があること、能力がつくこと、体育会系であること、クライアントの業界が多種多様で転職力がつくこと、チームプロジェクトであること。

3. 人とは違って、ここを工夫した！ということを教えてください。

工夫はしていない。すべてにおいて素を出した。努めたのは、自分流のオリジナルで望むこと、そしてお金を扱ったり周りの人を巻き込む経験をしたこと。また、オンとオフのギャップを見せたり、お礼の仕方を工夫したりした。

4. 感想を教えてください。

満足した！

5. アドバイスをお願いします。

- ・ とにかく、行動を自分から起こすこと。

- ・先輩にできるだけ話を聞くこと。
- ・自己分析をしっかりとすること。
- ・人との出会いを大切にするために、インターンシップにはいったほうがよい。

《私の感想》

このS Iさんは、大学生の2回生くらいから、SIVIOというボランティア団体を立ち上げて、実際にカンボジアに学校を建てたという方。かなり行動力があり、どういう就職活動を行われたのか気になったので、インタビューさせていただいた。やはり、普通の人とは違って、独特の雰囲気を持っておられる方なので、素、ありのままの自分で就職活動を行われたようである。一流の企業に内定していらっしゃるのだが、おそらく留年（あと2単位落とすと留年）なさるので、今年も就職活動、となりそう。・・・もったいない！というのが私の感想。しかし、この先輩の、0のことを1や10にするという行動力は見習いたい。

S Jさんへのインタビュー (no. 030)

《インタビューについて》

- ・ 同志社大学社会学部4回生のS Jさん (Fゼミの先輩)、男性
- ・ 普段の活動：NPO 法人 AIESEC (学生のための海外インターンシップ運営の西日本地区代表)
- ・ 資格：TOIEC 600点ほど
- ・ インターンシップ参加度：なし
- ・ 就職活動開始時期：3回生の12月ごろから
- ・ エントリーシート：12社、面接：12社、業種：商社、メーカー
- ・ 内定先：富士通 (最終面接まで行ったのはネスレ、NTT、パナソニック)

《インタビュー内容》

1. どのように企業選びをしましたか。

海外に進出していること、商社は面白そうであること、メーカーは好きだから。そして大前提は、大企業であること。

2. なぜ上のような企業選びをしましたか。

大企業を選んだのは、将来起業したいと考えるため、大企業を使って、大企業のもとで学び、起業しようと思ったから。現在活動しているNPO 法人 AIESEC も、基盤や、後ろ支えが充実していたので、大企業もそういうところはしっかりしているので、大企業を選んだ。

3. 人とは違って、ここを工夫した！ということを教えて下さい。

- ・ 説明会に行くなどして、徹底した企業研究を行ったこと。
- ・ 業界を絞って、就職活動を行ったこと。
- ・ うそはつかないこと。
- ・ 面接では、ありのままの自分を出すことを心がけたこと。

4. 面接について教えてください。

- ・ 住友商事は、圧迫面接だった。
- ・ パナソニックは、パナソニックをグローバルにするにはどうすればよいか、というのを3回ほど聞かれた。

・ネスレは、たとえばアイセックは世界でいくつほど活動拠点があるのか、などといった真意をくみとるような数字を聞かれた。

4. 感想を教えてください。

内定先が第一希望群だったため、納得のできる就職活動ができた。

5. アドバイスをお願いします。

- ・すべてにおいて、考えながら行動し、自己分析を常に行うことが大切。
- ・説明会には、必ず行くこと。

《私の感想》

S Jさんがおっしゃっていたことで印象的なのは、今（7月）は特に何もしなくてもいいよ、ただ、今活動していることを、自己を分析しながら、一生懸命活動することが大切だ、とおっしゃっていた。実際にS Jさんが就職活動を始めたのは、12月ということで、人より少し遅いかなという気がしたが、しかし、大企業に見事内定している。その理由は、普段活動していること（S Jさんの場合はNPO法人AIESEC）に対して一生懸命頑張っていたらよかったことだと感じた。S Jさんのお話を聞いて、就職活動に一生懸命になることも大切だが、それよりも、今自分が向き合っている活動について真剣に向き合うこと、それが最前提であって、そういった活動があってこそその就職活動であると感じた。それを抜きにして、本末転倒な就職活動をしないよう、私も心がけたい。